

## 公立大学設置の主なポイントに対する委員から意見

| 項目                     | 意見  |
|------------------------|---|
| ①優秀な学生の確保について          | <p>○道内だけでなく道外の高校に対しても広報活動が重要です。高大連携、出張授業、高校生の大学見学受け入れ、オープンキャンパス(大学説明会・体験授業)等多様な方法でPRが不可欠です。</p> <p>○推薦や指定校推薦制度を導入していくことが重要であると考えます。また、公立大学としては、旭川市内を中心に拡大したとしても道内からの学生確保が望ましいとは考えますが、今後を考えると、道外にも積極的に目を向けていくことが必要不可欠であると考えます。<br/>さらに、優秀な卒業生を輩出していき、その実績が重なっていくことも、優秀な学生確保には重要な視点であると考えます。</p> <p>○公立大学であれば、自然と偏差値があがり、優秀な学生の確保がしやすい<br/>大学に特色を持たせることもたいせつな要素 素晴らしい建学理念、著名な教師、学びやすい環境</p> <p>○優秀な学生がよその地域に行く理由として、大学の設置場所が中心部にないことや、授業料等が他地域の国・公立大学と地元の私立大学と経費があまりかわらないこと、国立、公立志向が強いことなどが考えられる。</p> <p>○学生の育成にあたっては、学部のみならず修士、博士課程を設けることが重要である。世界的にみて、学部のみでは、海外大学との連携も成り立たない。新たな分野の学部を創設するのならば、理論系の博士課程を設けることが必要条件である。実践、実習のみでは大学としての機能を果たせない。<br/>推薦制を充実させて優秀な学生の確保を行うこと。</p> <p>○魅力ある大学:専門分野、魅力ある教員、卒業後の進路</p>  |
| ②条件の良い就職先が得られる大学について   | <p>○現在の中学校、高校ではキャリア教育に力を入れ、大学卒業後の就職先を強く意識して志望校を決定しています。特に地元志向が強い現在、卒業後の就職先があるかどうか大きな問題になると考えてます。旭川の地域特性や基幹産業との関連で食料、食品、栄養関係の学部、学科を設置するのであれば関連する研究機関や施設、企業誘致の推進が必要です。<br/>医学系、歯学系、薬学系、看護系、医療技術系、健康福祉系は地元を受入先もあり、高校生の進路希望や保護者の意向にもマッチしていると考えます。<br/>前回配布された資料6、問9・11番目に、旭川は医療福祉系に片寄っているとありますが、これは専門学校のことと推察してます。大学と専門学校は根本的に違うと考えています。</p> <p>○大学として、教育の目的や方向性が明確であることはもちろん、大学のカリキュラムがしっかり整っていて、優秀な学生の育成をしていくことが不可欠であると考えます。<br/>また大学の目的や方向性に対して、積極的にバックアップや共同研究などをしていただける企業などを見つけていくことも重要かと思えます。さらに、実務的には、積極的な就職のための大学の広報と企業等の訪問が欠かせないと思われまます。</p> <p>○現在であれば、我が国としては医療や福祉といったものが、社会的な喫緊な問題となるものが、求められていると思われまます。ただ、社会的ニーズは猫の目のように変化するものもあり、これからさらに増大していくものや一時的なものまで様々です。単なる社会的な問題解決に関わるものだけでなく、地域に根付く大学を考えるのであれば、地域産業を支える方向性を決して忘れてはならないと思えます。旭川をベースに考えると、現在ある大学との競合を避ける中で、農業・食・家具・医療・福祉などが軸になるのではないかと思います。</p> |
| ③社会的人材需要に対応した学部、学科について | <p>○優秀な学生があればよい就職先が自然と広がる。地元企業は条件では負けるが、企業を創り上げていく喜び</p> <p>○建築・デザインなどは地域の企業の基盤があるので就職先として有望、また、食品加工、特に機能性食品などの分野は伸びしろが充分にある。経済学部は公立なら採用したいと考える経営者も多い。</p> <p>○他大学にはない専門学術領域の保有、・理論と地域臨床演習との抱き合わせによる授業、・他大学との遠隔連携授業の実施、・海外大学との連携ワークショップによる新たな海外動向の獲得</p> <p>○福祉工学部(福祉行政サービス学科、福祉臨床システム学科、福祉介護機器学科)</p> <p>○基礎学力、専門学力、人間力</p> <p>○・養護・介護・看護、・ものづくり(農工連携、医工連携、商工連携、ICT)、・まちづくり、都市計画、・観光、ビジネスマネジメント</p>  |
| ④熱意や力量が備わった教員の確保について   | <p>○優れた人材を確保する方法の一つとして公募による教員採用や他大学への推薦依頼が考えられます。</p> <p>○道内外から広く適任者を確保できれば良いのですが、地の利を考えますと、これは現実的に現在かなり厳しい状況ではないかと思えます。旭川市の良さ、魅力ある将来性のある大学であるということを訴えていくことが、何より大切ではないかと思えます。また、立ち上げ当初の教員構成をいかにするのが、重要なポイントとなるような気がいたします。</p> <p>○学び続ける意欲を喚起する実力主義の評価制度導入と、ふさわしい処遇<br/>チャレンジ評価、360度評価制度(受講生評価、同僚評価)<br/>研修機会の提供、他大学との教師交換制度</p> <p>○全国の助教や研究員に埋もれている人材は多い。企業誘致と同様、生活場所の提供など受け入れたい人材が望む優遇策をいくつか提案して選択させるのもよいと思われる。</p> <p>○福祉行政サービスの側面(旭川市)、福祉臨床システムの側面(医学・看護学・保健福祉学)、福祉・介護機器開発の側面(機械工学・電子工学・情報工学)などの分野での教員確保が必要となる。教員の確保面では、給与などは公務員の基準が採用されるであろうが、優秀な教員を外部から確保するには研究費、宿舍、燃料などの補助が必要である。</p> <p>○年俸制、若手・女性・外国人教員の登用、公正な評価と人材の流動、サバティカル制度による教員の視野拡大</p>  |

| 項目             | 意見   |
|----------------|--|
| ⑤地元に就職する学生     | <p>○人材供給、知的活性化の面で地域経済に「パブリックスペース」としての大学の果たす役割は大きいと言われてます。</p> <p>○地元出身の学生であることが一番の条件かと考えます。旭川市外または道外の学生が就職まで旭川に定着していくことは、かなり難しいと思われます。または、学生が大学在学中から、講義や実習などを通して、積極的に地元の産業や施設などとの接触や関わりがあることは、上記のような気持ちを揺れ動かすことにもつながることもあります。大学での教育・研究が、地域の産業と結び付くことが、またそれが産学官との連携の中で位置づいていくことが、地域経済の活性化にもつながっていくのではないかと考えます。さらに、その体制が整って行く中で、新しい地域経済の活性化の視点も見い出せるのではないかと思います。</p> <p>○地元企業、地元経済の底上げとなる学生を育てたい<br/>ふるさとのために働きたいという若者の情熱を活かす仕組みづくり<br/>企業との連携によるインターンシップ制度等<br/>自分のためには限界があるが、地元や仲間のためなら頑張れる</p> <p>○地元企業へ「教える人材」確保の支援<br/>奨学金(地元で就学し希望すれば奨学金、3～5年地元で働けば段階的に免除)創設<br/>交通網の整備(航空機で各地へ移動しやすい空港の整備、客員教授獲得に有効)<br/>中心市街地にキャンパスを設置するなど就学環境を整える</p> <p>○地元の受け入れ体制が備わるまでは「卒業生は必ずしも地元で就職できない」と考えるべきであり、地元での知名度を上げ、受け入れ企業が増加するよう市民全体の支援が必要である。受け入れ企業を増やすには、新設大学が何をやる大学なのかということ、市民連携事業などで市民に知らせることが必要である。行政は新産業を生み出す努力とともに、進出企業に対する補助支援を行い、学生を受け入れる環境整備を行ってゆくという長期的戦略が必要である。</p>  |
| ⑥地域の活性化について    | <p>○「学生」についてであるが、福祉産業系大学を目指すのであれば、すべてが高校新卒である必要はなく、介護・福祉系のサービス人材開発を目指すため、社会人学生の採用を増やすなどが考えられる。高齢者などの「生きがい」確保にもつながるだろう。</p> <p>○「地域の活性化」が求められるのであって、必ずしも「地域経済の活性化」のみではないことに留意することが必要である。「経済的豊かさ」は必ずしも「生活の豊かさ」をもたらすものではないからである。さらに、「地域経済の活性化」の主役は、あくまでも市民であり、大学は「市民による地域経済の活性化」を支援する機能を担う。</p> <p>○「地域の活性化」において、留意すべきは「旭川という地域が活性化する際にどのような資源がこの地域に存在するか」である。食品産業系大学というテーマにするのであれば、水産資源、農業資源、牧畜資源、林業資源など、どのような食の資源が他地域より優位に存在しているのかということである。福祉ということを考えるのであれば、看護学部、医学部、などはすでに大学として存在しているので、これらに関連した介護機器、医療機器、福祉医療機器などのモノやシステムづくりのための福祉産業系大学が考えられよう。福祉産業系大学としては、将来へ向けた公共的需要を推計でき、また海外との連携ならびに海外市場への産業的展開も期待できるのではないだろうか。福祉系領域の横断型連携先は、行政サービスの側面(旭川市)、福祉臨床システムの側面(医学・看護)、福祉・介護機器開発的側面(機械工学・電子工学・情報工学)において国立大、高専等の連携可能機関がある。</p> <p>○「地域の活性化」は大学ができたからすぐ実現するということではない。地域の活性化の主役は市民であり、大学は、教員学生を含めて市民と連携して支援するということである。産業を支援するという方向を選んだとすれば、学生を育成して送り込むということになるがそれにしても、産業支援の実現には10年くらいはかかる应考虑すべきである。</p> <p>○折角大学をつくって高度の教育を受けた学生を卒業させたとしても、現在の状況では、地元での雇用の受け皿が少なく、卒業生の多くが地元で就職することは困難な状況。旭川市が、民間との協働により新しい産業を興し、雇用を創出する必要がある。</p> <p>○大学経営自体が一つの経済活動であり、外部からの学生が、4～9年間旭川市に居を構えることだけを取っていても、大きな経済効果である。旭川地域で育った若者が、他の地域に転出せず、旭川で大学教育を受けることも、人口減少の歯止めという意味である程度の経済効果をもつ。旭川の大学で教育を受けた者を核とし、旭川地域外で教育を受けた者を取り込んで旭川を発展させることができれば、大きな長期的経済活性化となる。</p> |
| ⑦どのような大学を目指すのか | <p>○旭川の規模(人口や産業構造等)を考えた場合、高度専門職業人養成、社会貢献機能が妥当かと思えます。</p> <p>○少し抽象的ですが、旭川でしかできない、旭川らしい、コンパクトかつ今までにない専門性の高い大学を目指すことが、大学としての個性になるのではないかと考えます。</p> <p>○地方大学として大学の理念は、北海道のために貢献できる人材の育成<br/>小さく始めて、大きくしていく<br/>ものづくり、デザイン、IT技術者の養成 考える力、判断力を養成する</p> <p>○ビジネスモデルの構築や、実務のスキルに適合することを主眼として養成する大学</p> <p>○これからの公立大学は、教育・研究ばかりでなく、地域のセンターとしての機能が求められている。地域のセンターとしての機能とは「地域の人々による地域の活性化」の支援機能である。「地域福祉の活性化」、地域文化の活性化、「地域生活の活性化」、「地域での生きがいの活性化」、「地域資源の活性化」、「地域サービスの活性化」などが求められている。そのための大学機能分化として、「高度専門職業人養成」ならびに「社会貢献機能」を有する大学を上げたい。</p> <p>○「地産地消」とは、地域で生産されたものをその地で消費することを言うが、「人材の地産地消」は、旭川の将来の発展を考える上では、有益ではない。街の発展のためには、「よそ者、若者、馬鹿者」が必要と、よく言われるが、旭川地域の発展のためには、よその土地で生まれ育ち、よその土地で教育を受けた者を、如何に受け入れ、引き留めるかが重要である。その意味で、「旭川市立大学」は、「旭川市民の、旭川市民による、旭川市民のための大学」であってはならず、「日本全国・全世界に開かれた大学」を目指すべきである。</p>  |
| ⑧その他意見         | <p>○少子化と今後のまちのコンパクト化を考えると、たとえ単科大学としても、大規模大学ではなく、小規模かつ専門色の強い大学であることの方が、重要であると思われる。また、全国的な動きをかんがみましても、大学の新設には慎重に、また5年、10年先を見通した、選択・判断が不可欠ではないかと思えます。</p> <p>○旭川市は、市民一人当たりの医療従事者が極めて多い街である。旭川を「高度先進医療」を安心して受けられる街にできないだろうか。他の地域より、評判を聞いて患者が来れば、自ずと多くの人たちが集まるようになる。旭川の観光にこのコンセプトを取り入れれば、旭川の将来に大きく寄与すると思われる。これからできるだろう旭川市立大学は、これを手助けできるものとすべきである。</p>   |